

## 教育・研究現場における 障がい学生支援に関する勉強会について

渡邊高子、高橋智、高柳充寛、武田百合子、山本浩、高木慎之助、近藤みずき

### 勉強会の目的と背景

技術支援センター基礎教育支援グループでは、学生実験、演習や研究指導のような教育・研究現場での支援方法の改善や情報共有を目的とし、7年以上にわたって合理的配慮や障がいをもつ学生に関する勉強会を実施してきました。現在では社会全体でダイバーシティへの意識が高まっていますが、勉強会開始当時は技術職員の具体的な対応ノウハウが乏しく、個々の経験則に頼らざるを得ない手探りの状態にありました。こうした中で、合理的配慮と障がいについて正しい知識と具体的な対応論の習得を目指したことが、本勉強会の原点です。

### 勉強会の変遷と外部連携

当初は学内の専門家(体育・保健センターの産業医、保健師、カウンセラー、キャンパスソーシャルワーカー等)を講師に招き、障がい学生支援に関する勉強会を年1~2回開催してきました。障がいの種類や特性、教育におけるユニバーサルデザイン、学内の支援体制といった基礎知識を学ぶとともに、日々の実験・演習指導や研究支援で直面した事例を共有し、適切な対応スキルの習得に努めてきました。また、コロナ禍における完全オンライン授業の期間中には、障がい学生に限らず学生全体が抱える不安や相談内容の変化について学内専門家と情報を共有し、その時々状況に応じた学生理解に努めました。技術職員としてどのように学生をサポートできるか、また対応に苦慮した場合の学内連携先の情報など、実践的な意見交換を行いました。

最近では、本学学生の多くが高専からの編入生であることをふまえ、高専生の現状を知ることが今後の教育支援に有用であると考え、視野を学外にも広げています。2025年度は高専で長年学生相談室長を務められた先生を講師にお招きし、現役高専生が抱える悩み、高専における支援体制や事例を学んだ他、NG行動事例集などの参考資料を紹介していただきました。特に、言葉で説得しようとする・言い聞かせようとするのが注意・指導場面のNG行動であることや、メールを返信したくても適切な返信内容がわからず返信できない学生がいることなど、初めて知ることも多く大変参考になりました。

勉強会には他グループの技術職員のほか、これまでの勉強会を通じて連携を深めてきた学生総合支援センターや学生支援課の皆様も参加されました。このように学内関係部署との横断的な連携が強化されたことや、高専との共通課題に向けた情報交換を行なえたことは、技術職員の立場からより適切な教育・研究支援を提供するきっかけとなりました。

### おわりに

技術職員にとって、教育・研究現場における技術支援が最大の使命です。一方で、私たちは日々の業務を通じて学生と特有の距離感で接しており、学生の変化や困りごとをいち早く察知したり、教員や学生から相談を受ける機会も少なくありません。障がいの有無に関わらず、必要な学生には適したサポートを行い、かつ過度なサポートにならないよう配慮しながら、今後も学生への理解を深めるとともに、現場で求められる技術スキルとソフトスキルの両面を向上させていきたいと考えています。

